第 87 回機器･配管系検討会　議事録

1.　**日　時**　2024 年 1 月 31 日（火）10 時 00 分～11 時 20 分

2.　**場　所**　一般社団法人 日本電気協会 4 階 C 会議室（Web 会議併用）

3.　**出席者**（順不同，敬称略）

出 席 委 員：中村主査(東京都市大学)，古屋副主査(東京電機大学)，野元幹事(日本原燃)，
行徳副幹事(日立 GE ﾆｭｰｸﾘｱ･ｴﾅｼﾞｰ)，藤田(東京電機大学)，
上屋(日本原子力発電)，南保(北海道電力)，波木井(東京電力 HD)，
久保田(中部電力)，辰尾(北陸電力)，田村(ｳｨﾛｰﾃｯｸｿﾘｭｰｼｮﾝ)，森田(四国電力)，
大口(電源開発)，川幡(東芝ｴﾈﾙｷﾞｰｼｽﾃﾑｽﾞ)，松岡(三菱重工業)，
工藤(富士電機)，小関(原子燃料工業)，齋藤(電力中央研究所)，
宮崎(日本原子力研究開発機構)　(計19名)

代理出席者：大江(東北電力，秋葉委員代理)，森(九州電力，池田委員代理)　(計 2名)

常時参加者：なし　(計 0名)

オブザーバ：日比野(原子力規制庁)　(計 1名)

説　明　者：呉(三菱重工業)，酒井(電力中央研究所)，黒川(関西電力)，石丸(中国電力)
(計 4名)

欠 席 委 員：渡邉(埼玉大学)，小江(原子力ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ)，　(計 2名)

事　務　局：米津，田邊(日本電気協会)　(計 2名)

4.　**配付資料**

資料 No.87-1　第 86 回機器・配管系検討会 議事録（案）
資料 No.87-2　原子力規格委員会耐震設計分科会　機器・配管系検討会委員名簿
資料 No.87-3-1　2024 年度 各分野の規格策定活動　（案）
資料 No.87-3-2　原子力規格委員会 耐震設計分科会 2024 年度活動計画（案）
資料 No.87-4　地震後の施設評価に関する基準について（議論用メモ）

5.　**議事**

事務局から，本検討会にて私的独占の禁止並びに公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後，中村主査の挨拶があり，その後議事が進められた。

(1) **資料の確認，代理出席者・オブザーバの承認**

事務局から配付資料の確認の後，代理出席者 2 名の紹介があり，分科会規約第 13 条（検討会）第 7 項に基づき主査の承認を得た。確認時点で出席者は代理出席者を含めて 20 名で，検討会決議条件である分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項に基づく，委員総数 23 名に対し決議に必要な「委員総数の 3 分の 2 以上の出席(16 名以上)」を満たしていることを確認した。その後オブザーバ 1 名の紹介があり，分科会規約第 13 条（検討会）第 11 項に基づき，主査の承認を得た。また説明者 4 名の紹介があった。

(2) 前回議事録（案）の確認

事務局から資料 No.87-1 に基づき，前回議事録（案）の紹介があり，正式議事録にすることについて，分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項に基づき，挙手にて決議の結果，出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(3) 委員退任の紹介

事務局より，資料 No.87-2 に基づき，下記退任委員について紹介があった。

・委員退任予定　小江　委員（(株)原子力ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ）

(4) 2023 年度活動実績及び 2024 年度活動計画及び検討課題について（審議）

資料 No.87-3-1，資料 No.87-3-2 及び資料 No.87-4 に基づき，2023 年度活動実績及び 2024 年度活動計画及び検討課題について説明を行い，今回の意見を反映した資料 No.87-3-1 及び資料 No.87-3-2 を総括検討会に上程するかについて，分科会規約第 13 条(検討会)第 15 項に基づき挙手にて決議の結果，承認された。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

・ 能登半島地震が発生し，地震後の設備の健全性評価をどの様にして実施していくのかという所を非常に悩んでいる。1 つの指標としては JANTI ガイドを利用しようと考えているが，読解するのも難解なところもあるうえ，エンドース対象ではなく妥当であるのかというところと，説明に苦労しそうだと思っている。そのため，地震後の健全性評価のようなものを日本電気協会の規格として整備するのが望ましいと考える。エンドースとなるかは別としてガイドラインよりは拠り所として JEAC，JEAG である方が公知化された形となり，電気協会の規格となっていればより確からしい拠り所になると考えている。

・ 地震後の健全性評価と活動が異なることとした設備損傷事例集については現在どのような状況か。

→ 現在総括検討会の下でワーキングを作って策定を進めている。予定より遅れている状況であるが、策定活動は継続して進行している。

・ 設備損傷事例集については地震点検評価の取り組みの規格で参照するような資料だと思うが，合流させるようなものでもないため切り離すということでよいか。

→ それぞれの趣旨が違う。損傷事例集は実際に設備が地震荷重を受けたときに、現実にどのように損傷したのかという事例集を作ることによって，設計者が配慮すべき事項，実際設計するときに何に配慮して設計しなければならないかをリマインドするような，ある意味教育資料的なものを意図している。地震後の設備健全性評価は，JANTI のガイドラインもそうであるが，実際に被災した際に健全性をどのように判断するのかという内容であり，合流させるというのは少し違うということである。

・ 3 次元免震の話は免震 JEAG の方に反映するのか，それとも高速炉の規格の方に反映するのか。

→ まだ明確に決まっていない。

(5) **その他**

・ 委員より過去の経緯を確認した方が良い事項として、生体遮蔽の耐震クラス分類設定の経緯について提案があり、今後調査していくことについて野元幹事から説明があった。

・ 事務局より，ISO 規格案の書面審議結果について説明があった。

・ 次回機器・配管系検討会開催は 2024 年 2 月 22 日(木)の午後に日本電気協会の C 会議室で実施予定。

以　上